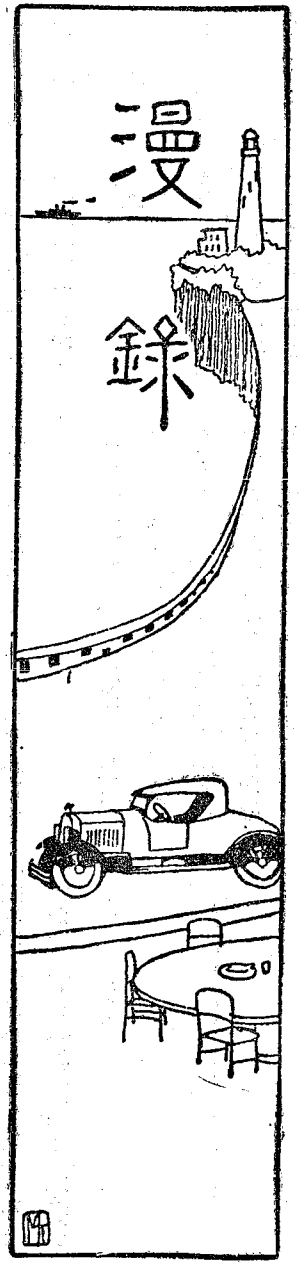


東北 北陸 道路改良講演の旅

上山生

十月廿四日

數日來の霖雨もごうやら晴れて、きれぎれの雲の間から晩秋の太陽が麗らかに輝いて居た。今日は講演旅行の門出だ。天氣に惠れて幸先がよい。午前九時上野に集合、同行五人、前復興院副總裁本會理事松本幹一郎氏、武井、佐藤、都築の各幹事と私、九時二十八分の小牛田行に乘込む。プラットホームには小島幹事と大出忠治氏其他多數の見送りあり、列車の出發までの小時、小島幹事一首を駄句る。

講演のきゝめはやがてみちのくの

奥の細みちふこくなるらん

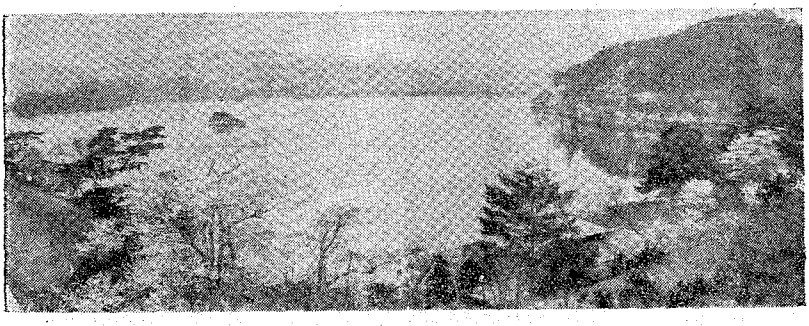
黄ばんだ上野の森を後に、列車は白河福島を指して急ぐ。ごみごみした場末の街を通りぬけて左に新荒川を見ながら轟音すさまじく鐵橋を渡りて川口町に入る。

大宮驛でサンドウイッチとコーヒーなどを購入して、盛んにぱくつく、十一時頃列車が久喜驛を過ぎた頃から絹糸の如き細雨しきりに窓をうちだした。空はまるで灰色だ。

小山驛で晝食、宇都宮に十二時半到着。雨漸く霽れて陽の光微かに照らす、此地には毎年來るが、いつ來てもはつきりしない街だ。空はどんよりとシベリヤの冬空を思ひ出させる。暗い陰氣な街だ。大阪の工場地帶のやうな不愉快さを感じる。佐藤さんも學生時代に居たことを話されて殆んど行く處さへない單調な土地だとつけ加へられた。

列車は走る。窓からぼんやり外を望めると、田圃には黄ばんだ稻の穗があるかなきかの風に金波をうつて居る。

ところどころに虎刈の頭のやうにだんだらに稻が刈られて居るが、まだ大部分は殘つて居る。遠くに姉樣かぶりの村の娘達が緋の蹴出しをちらつかせながらまめ〳〵しく働いて居る、田園氣分が横溢して遠き昔が偲ばれる。午後一時寶積寺驛に着く。鐵道開通三十年記念祝賀會とか、山車が出て笛、太鼓、三味線で踊り狂ふので驛は人でごつたがへして居る。



福島縣の南湖公園

午後三時白河驛に着く、プラットホームには中川福島縣土木課長、鈴木縣會議員、栗原技師、北島屬、其他多數の出迎あり。一行は自動車で内務省指定名史蹟勝地、白

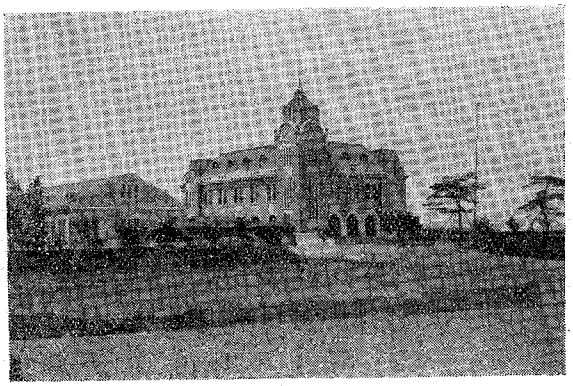
河南湖公園に案内された、南湖は寛政年中松平樂翁公の四民共樂地として開鑿にかゝり我が國公園の鼻祖であつて湖の周邊老松古木頗る多く風光明媚の境である。殊にその昔樂翁公の植ゑたと傳へらるゝ芳野の櫻、龍田の紅葉等數甚だ多し。小宴の後、記念撮影をなし五臺の自動車に分乘して白河町へ戻る。

白河關址

白河は東北の咽喉であつて古來「白河の關」の在つた所で彼の能因法師が

都みば霞と共に立しかど
秋風ぞ吹く白川の關

と詠じた古歌を以つて特に有名である。市街に沿ふて阿武隈川が流れ東に沃野を以つて開け西は遙かに那須火山を望む、一行は天然の風光を賞でつゝ九里餘の國道をドライブして郡山に向ふ。



郡山公會堂

途中鐵道の踏切りに或は自動車の故障に腦まされながら午後五時半郡山に著く。

郡山の地名は元芳賀の鄕と呼んでゐたものが昔橘爲仲朝臣が陸奥に下り恰度此地に來たとき山櫻の滿開して花の香が旅の衣を打つた、時に爲仲は、

陸奥の芳賀のしの原春來れば
吹く風いとゞかほる山里

と詠んだ此歌にかたどり「かほる山」と呼び後ち郡山と

呼んだのたと云ふ傳說を聞かされた。

旅舍で小憩の後七時半から講演のため公會堂に行く、麓山公園に接續した西方高地に鐵筋コンクリートで新式の建築、內部は和洋折衷の構造で大正十三年十月に竣功したと云ふがまだ木の香が失せない。郡山市が持つ一特意の建物らしい。

茲で最初の講演會が開催せられた。

開會の辭　郡山市長大森吉彌氏

挨拶　都筑幹事

道路の交通　佐藤技師

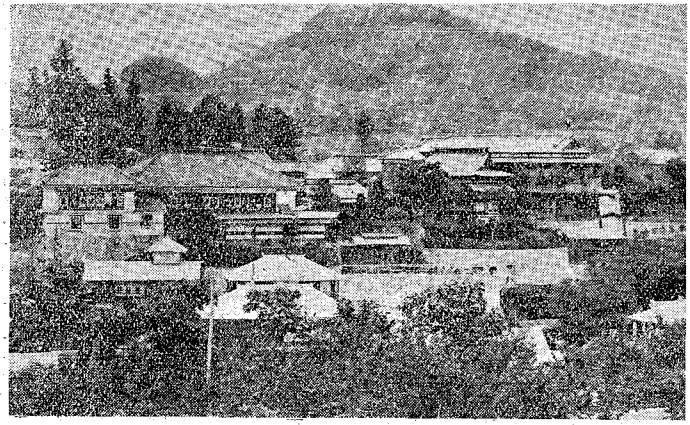
道路改良と愛護　武井事務官

陸上交通と道路　松木理事

閉會の辭　中川福島縣土木課長

聽衆約五百名中川土木課長の音頭で萬歲三唱の後十時閉會。それより直ちに市主催の歡迎會に宮戸川亭へ招かれた。大森市長より挨拶ありこれに對して松木理事の答禮あり宴に移り美妓酒間を斡旋し十一時半旅舍に歸る。

助役永山兵次氏、市土木課長鈴木康孝氏、土木監督所長大江勘太郎氏、縣會議員鈴木啓夫氏、栗原縣技師、北島屬諸氏の厚意に篤く感謝する。



飯坂溫泉

十月二十五日

郡山の太田旅館を大森市長と中川土木課長の案內で自動車に乘つた一行は郡山市內の道路及都市計畫の狀況を視察する。此

日昨夜來の猛雨あとなくあがり、天氣晴朗で好個の秋晴れである、市街を一巡後福島市へ向ふ、途中大森市長と別れ十三里の道を自動車で飛ばす。

福島市に著くや直ちに知事、警察部長、庶務課長の各位並岡部市助役の案内で皆樂に晝食を採る。此料亭は川に臨み小舟浮べて鮎釣りの長閑さ。しかも座に侍る土地の美形數名あり滿座たゞ陶然として駘蕩す。やがて自動車を馳り競馬場と水源地を參觀すべく岡部助役さんと齋藤土木技師の案内で、水源地に午後三時到着す。偶々後發の牧博士の來福ありて一行の元氣更に加ふ。三時半から公會堂に於て講演。

開會の辭　福島市長小杉善助氏
道路の保安　佐藤技師
自動車道路に就て　武井事務官
我國道路の將來に望む　牧博士
交通上より見たる道路　松木理事
閉會の辭　中川福島縣土木課長

會衆八百名でなか〳〵の盛況であつた。終つて松葉亭に市主催の歡迎會あり、出迎への爲め山形から兒玉土木課長は山口技師を同伴して來縣されいろ〳〵準備打合せを爲す。一行は知事の案内で飯坂溫泉に赴き花水館で縣主催の歡迎會に臨む。午後十一時半一同寢に就く。

十月二十六日

けふの旅行を氣づかつた昨夜の大雨もからり晴れて陽の光さへ見ることが出來た。

午前九時福島驛から宮崎土木局長、山田常務理事、丹羽道路課長に宛て松木、牧兩理事より

道路費豫算復活につき改良會の運動方御配慮を乞ふ

旨打電した。

驛には知事、土木課長、市助役を始め縣廳から數十名の見送りで賑つた。發車間際になつても松木さんが乘つた自動車が來ない、五分、三分と迫る、氣が氣でない既に一分と云ふ處へ馳せつけた、待つ人も待たるゝ人ともぢもに汗

だく〳〵の思ひでやつと間に合つた。なんでも途中書籍を求めてゐられたことであつた。都筑さんの發意で果物や辨當を驛で仕込んだ。

山形縣へ這入つた、山から山、谷から谷へと、あへぎあへぎ昇る汽車は海拔千九百九十八尺の高山板谷峠を越す、紅葉連山を包み其の紅の麗はしさ云はんかたなくその中に黄色や常綠樹が點々として其の趣いとも深い。蓋し天下の勝景みなの喜ぶこと限りなし、ところ〳〵にひなびたる山家の隱見せるも一しほの趣を添へて居る。スキーで有名な五色溫泉はまた子供の出來る湯といふ看板に乘客一同窓からのぞく。

米澤市に午後一時二十分着直ちに自動車で織物檢査所を視察した。安永五年越後から縮織師源左衞門といふを招いで藩士の家族に織法を傳習せしめたのが米澤織物の創始であつて爾來二百年の春花秋月時に、盛衰消長はあつても漸年發展し今では織物は米澤の生命となつたことの多くの男女が山と積まれた太物にうづまつて檢印の最中であつた

見てよし、着てよし、品もよし、

都に鄙に萬人向き

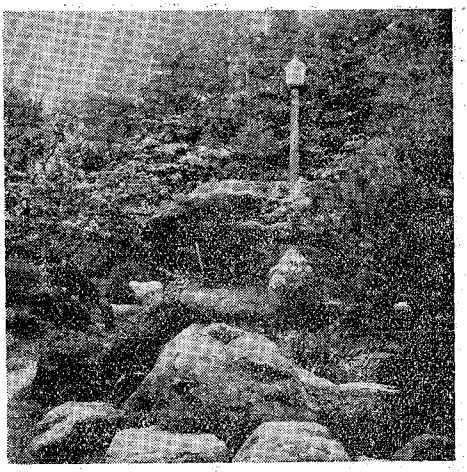
と書かれてあつたのを見た。それより上杉謙信公を祀る別格官幣社上杉神社に參拜終つて寶物を拜觀して米澤高等女學校に向ひ午後三時半から本校の講堂で講演した。

上杉神社

開會の辭　都筑幹事

道路愛護と交通道德　武井事務官

我國道路の現代的價値　牧　博士
陸上交通と道路　松本理事
閉會の辭　兒玉山形縣土木課長



千歳館庭園

聽衆五百人終つて九里の山道を上ノ山溫泉に自動車を飛ばし、六時から知事、內務部長、警察部長、學務部長始め縣廳各課長技師の歡迎宴に臨み歡を盡して十一時半に就床。

十月二十七日

晴朗一點の雲なき秋日和を午前八時四臺の自動車を連らねて山形市に向ふべく、上ノ山溫泉を後にする。澄み切つた紺碧の空は、東京の埃に汚れた濛々たる曇空に比すべくもない心地よさである。途中三島權令の開鑿した新道に記念碑が立てられてある、碑の前で一同車より下りて記念撮影をなし山形市に入る。直ちに三島神社に參拜玉串料を奉獻し縣廳に至り少憩の後、山形名勝山寺に案內された、山形市より東北三里、寶珠山立石寺と云ふ貞觀年中、慈覺大師の開基に係るとか全山奇巖怪石を以つ

山形市にある山寺

で埋められ老松古杉の雨に梳けらるゝ所多く殊に秋色優れて云はんかたなし風景の美は東北の耶馬溪と稱されてゐるとか村長さんに茶飲み話しに聞かされた。自動車で引返して午前十一時頃千歳館に案内され美妓の北海道追分にころりとさせられながら晝食をする、千歳館の庭園は松を以て蔽はれ綠翠滴るばかりで東北の旅館には珍らしいほど立派なものであつた。

午後一時から縣廳議事堂で講演。

開會の辭　篠原知事

道路交通と保安　佐藤技師

歐米の道路と我が國の道路　牧　博士

經濟上より見たる道路　松本理事

閉會の辭　兒玉山形縣土木課長

三時前に講演を終る、これより一先づ山形縣を去り、秋田縣の大館町と秋田市に赴きて講演をなし、更に山形縣に入り酒田町と鶴岡市に於て講演會を開催することに決し、一先づ山形縣の人達と別れを告げて午後三時十分の列車で秋田の横手町に向ふ。行程六時間雜談に時を過す、暮色漸く迫る中を汽車は黑煙を後にひたむきに走る、どこからだつたか、米國人らしき十人許りの家族が乘込んで來た、その賑やかなこと、無邪氣に戯るゝ碧眼金髮の子供等、我等と盛んに愉快に笑ふ、其頃窓外を望めば、黑ずみたる、かなたの山上に眞澄の月がかゝつて稻田の上を青白く照らして居る。

列車は青白い光線を浴びながら尙もまつしぐらに進み、車內では笑聲、談聲ゆらめく、午後八時横手町に到着、仲本土木課長、小川技師、早坂主事諸氏の出迎を受け山田屋に赴き秋田美人のお酌にて盃を汲み大いに歡待され十時旅舍平源に着く。

十月二十八日

早朝早坂主事、小川技師外數氏に送られて驛に向ひ午前七時一同汽車に乘つたけれども荷物は何一つ入らぬ中に發した車ので、牧博士と笹山書記が後から送つて來られた。

列車は北に進むに從つて東北らしい氣分濃厚となり、故郷のことなどゆくりなくも思ひ出し感慨に耽ける。六時間後大館驛に着く午後一時三十分自動車にて東北第一と謂はれる大館廓外、東籬園の菊花を見物して後別間で中田縣會議員や町役場主催の饗宴あり、午後三時より町役場樓上に於て講演開催

大館東籬園の菊

開會の辭　都筑幹事

道路の建設と維持　佐藤技師

道路の改良と愛護　武井事務官

道路と社會の進歩　松本理事

我國道路の現代的價値　牧博士

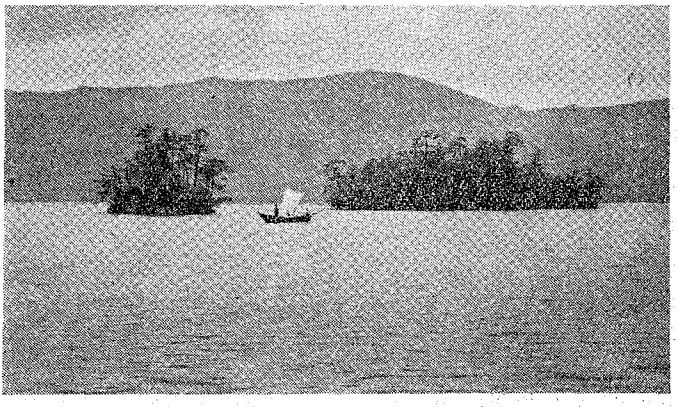
閉會の辭　仲本秋田縣土木課長

會衆五百名、終つて大館から大湯溫泉まで九里餘の道を月光浴びてドライブ。夜氣身に迫る、奥へ進むに從つて小川のせゝらぎの音しきりに耳をうち、こんもりと繁つた森が月光の中に黑く浮び出でゝ居る、愉快なドライブだが道路の狀態は夜のためによく視察は出來なかつた。大湯ホテルに著くともう九時であつた。」

十月二十九日

まだ夜の明けきらぬ午前五時一行は薄暗を突いて十和田湖畔に向ふ、道路の破損甚だしく車しきりに動搖し頗る不愉快ながら湖上に近づくに從つて大湯川の溪流に沿ひ銚子

の瀧、錦瀧の奇勝などおぼろながら見ることが出來た。大曲、小曲して進む自動車から眼下に湖水が見え始めた頃には、朝霧が立ちこめて畫を見るやうに美しい。



十和田湖

和井内ホテルに小憩紅鱒の人工孵化場を視察して武井幹事の面白い説明等ありそれより直ちに船に乘つて湖上の景を賞した。

周圍十五里湖面海拔一千三百二十尺水深一千二百尺さか中山、御倉の二大半島が突出して數十の岬、灣、小島其の間に介在して渚汀は奇岩怪石削立した老松古樹鬱蒼として名も知らぬ小鳥の聲さへ聞ゆ、湖を包む連山全て紅葉し、山水の美その風趣最大級の讃辭を呈しても尚足りない、靜けさ、美しさ、麗しき十和田湖、眞に神秘境の名に背かず嘗つて東京日日新聞社が募集した、湖沼の日本新八景の一に入つたなど人も知る通り、湖上の途中急電に接して歸東せらる、武井事務官と船と船とで別れる。

そのうち惜しいことには、しばらくして風が出、雨が降つて來たので、長らく湖上に居ることが出來なかつた。然し雨にけむる湖上の眺めも亦捨て難かつた。大湯ホテルに引返して自動車に荷物を積んで大館驛に向ひ十一時十二分發の秋田行列車に乘つた。

途中土崎港を、刈田町長と加賀谷助役の案内で視察した土崎港は雄物川河口に當る港津で三百年の歴史を有し秋田縣下唯一の良港灣の素質を持つて居り雄物川改修工事河口改良工事竣成の曉には船川港と相俟つて縣下産業の發展に

資すること大で、青森、酒田、新潟、伏木、七尾の諸港と共に北日本海岸に於ける海運及露領西比利亞との間に密接な關係に在り將來も大秋田市建設の鍵鑰を握り築港竣成後この發展

土崎港

そ想像に餘りある。

それより更に自動車にて秋田市に向ふ。

秋田市に着くや宿に小憩の後五時より秋田記念會館に講演をなす。

開會の辭　天谷秋田縣内務部長

道路の交通と保安　佐藤技師

經濟上より見たる道路　松木理事

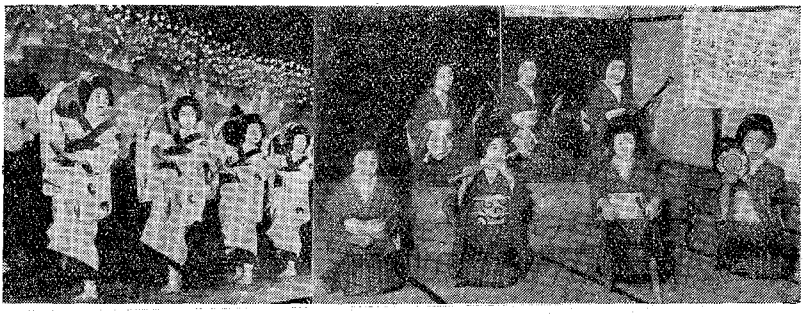
我が國道路の將來に望む　牧　博士

閉會の辭　仲本秋田縣土木課長

聽衆八百名盛會裡に午後七時散會、それより秋田倶樂部に縣主催の歡迎會あり、席上秋田藝妓の秋田音頭を踊る、出るわ〳〵その數いさゝか美人に醉さるゝ感あり、いゝ氣持ちになつて宿に引上げたのは午後十時過ぎ。

十月三十日

我等一行は午前九時五十分の急行で、天谷内務、中村警察兩部長を初め多數の人々に見送られて秋田市を辭し、鶴岡市に向ふ。汽車に搖らるゝこと約三時間にして酒田町に着く、縣よりわざ〳〵坪井内務部長が土木課の諸氏とも



秋田音頭

秋田名産
米と木材金銀
石油だ

金の釜で
銀の米粒
油で飯たアで
喰

に出迎えに來られ、瞰海樓に落ちつく、東京より來援の前鐵道次官本會理事中川正左氏が既に待ち受けて居られた、こゝは高臺であつて一眸のうちに酒田全町を收め、遠くに酒田港の改修實況を眺められる。中食を濟まし、更に自動車にて國立米穀倉庫に至り百萬石貯藏の白米を見る、後三時半より公會堂に行く、既に千餘の聽衆が待つて居た。

開會の辭　　坪井山形縣内務部長

道路建設と維持　　佐藤技師

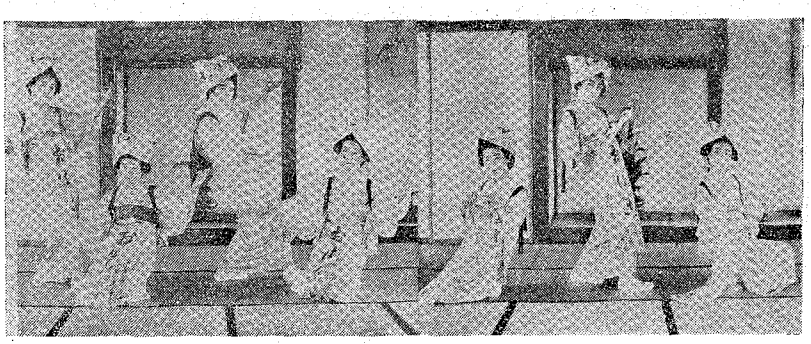
我が國の道路は何故發達せざりしか　　牧　博士

交通上より見たる道路　　中川理事

閉會の辭　　兒玉山形縣土木課長

午後五時半終了女學生も三百名許り來て居て盛會であつた。散會後酒田ホテルに歸り六時より縣廳並町主催の歡迎會に臨み莊内名物、おばこ節で大いに酒を汲み午後十時に歸宿。

十月三十一日



莊内名物おばこ踊

おばこ來るかやと
田圃のはんずれ
まで出て見たば
コバエテ〳〵

おばこ來もせじ
要のない煙草賣
などふれてくる
コバエテ〳〵

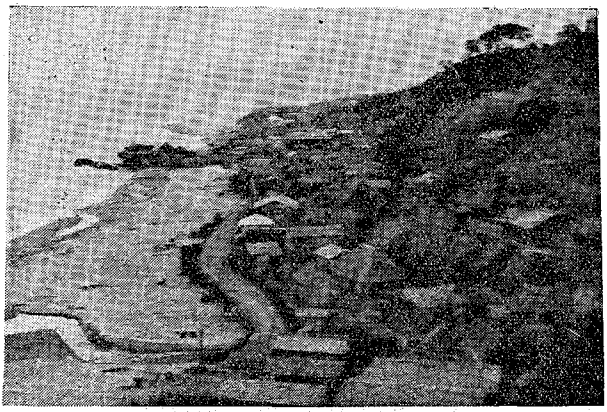
午前八時一行は酒田町に別れを告げ、鶴岡市に向ふ。途中最上川下流開鑿工事を視察した。もう十一月の聲を聞く日本海から持てくる吹さらし身に泌む、やつと愉りかけた風邪がまた引返す仕末、東京から冬外套を携へられた都筑さん、すつかり得意になつて、ごんなもんかと云ふ、きのふまで暑いでせうと同情してゐた人達、默つて苦笑してゐた、でも都筑さんを除く人達には一人もオバーの持合せはなかつたから。

赤川で黑谷鶴岡市長の出迎えを受け鶴岡市に入る、料亭みよしので書餐の饗應を受け宴後公會堂に行き講演。

開會の辭　黑谷鶴岡市長
道路の交通と保安　佐藤技師
我が國道路の將來に望む　牧　博士
道路の改良と鐵道　中川理事
經濟上より見たる道路　松本理事
閉會の辭　兒玉山形縣土木課長

聽衆八百名盛會裡に終る、直ちに記念撮影の上羽二重織

物工場を視察した、鶴岡市は昔時十七萬石を領せし莊内藩主酒井家の城邑で名勝史蹟に富み別名米の國の稱あり殊に輸出絹織物業は最も旺盛にして羽前品として其の名海外に轟く



湯とか、それよりの料亭新茶屋に官民合同の歡迎宴濱温泉あり、五時半終つて自動車に乘泉移らんとする際、一人の美妓、馳けて來り、

「おめへ、またけるや」（あなたまたお出で下さいの意）

の一聲にみなのもの驚くやら笑ふやらでしばし賑つた。東北特有の方言に都筑さん目をパチ〳〵。喜劇を殘して自動車は湯の濱溫泉に急ぐ、六時龜屋ホテルに着く日本海より吹き飛ばし風、物凄しく身を切るやうな寒さ、市より西二里半で日本海に面し海岸砂濱で夏の海水浴盛んなりと尙ほ附近に善寶寺あつて湯の濱と僅に海岸の丘陵山脈を隔て背合せとなり「トンネル」を以つて通じ、航海の守護尊として祈禱參詣者絶えないと聞く、溫泉は鹽類泉で其の附近風光明媚海洋萬里の眺あり夜七時より宿にて縣側との合同晩餐會等あり、就床十時半。

十一月一日

朝風寒い湯の濱溫泉を自動車で去り、大山驛に至り列車の人となる、午前八時より午後六時半まで約十時間。少しばかり長いのでないのに、うんざりさせる、途中で求めた改造や中央公論で時間を過してゐるが、やつぱりあきがくる、みなの人達も同樣談笑する、窓外に目をやる、眠る、喰ふ、やつとの思ひで直江津に着く。東京を振出しに長い

旅の枕を重ねた松木理事とお別れすることになつた。

あり合せのビールで車中乾杯をしてお疲れの御苦勞を謝する暇もなくプラットホームで別れた。するとまた一方富山縣の木村土木課長がわざ〳〵出迎へに來て居られ一緒になつて、まだ汽車で急ぐ昔の親知らず子知らずの難所も夕暗みの中に過ぎる、三日市町に下車して、黑部鐵道で宇奈月溫泉に着く、夜であつたので黑い大きな森がグツト迫つてまるで峽谷の中に家が立てられてあるかのやうな町だ、ボンヤリ光つた電燈の淋しい街を通つて奥まつた富山館といふ宿に靴をぬぐ。

湯に浸つて疲れた身體を伸してホツトした頃に縣の人達の厚意に依つて用意された食膳に向つて旅の噂さ話に花が咲く、本日は終日旅行で暮らした。

黑部峽谷

十一月二日

午前七時に旅宿を出た一行は日本電力出張所の案内で天下の神秘境黑部峽谷をトロで迎る、日本北アルプスの餘脈で山又山惠れたる形勝地で、黑部峽谷を中心として、黑薙溫泉、鐘釣溫泉、猿飛奇勝あり、黑部川も長さに於ては誇るに足らざるも、落差の絶大なることゝ、終歲盡きざる萬年雪を資源として、常に渝らざる水量を有することゝ、兩崖岩石の堅硬なることは他に比類なしとか說明された。山紫水明の別寰區である、奥に進むにつれて風冷めたく、暖をとるためにアンカを股に入れドテラ着込ん

でゐる樣は一寸茲以外に見られぬこと視察を遂げて宇奈月に戻り、驛の二階でみんなが思ひ〳〵の寄書きで東京へ便りをする。電車で三日市驛に至りそれより自動車で富山市に入る。

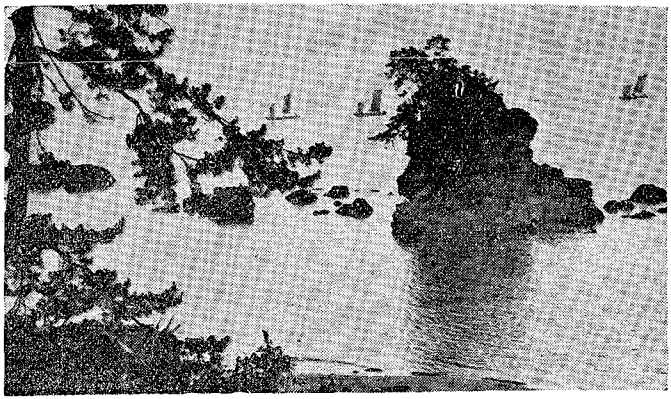
富山ホテルで市の歡迎會あり午後二時より縣廳議事堂に於て講演。

開會の辭　白根富山縣知事
道路の改良と愛護の精神　都筑幹事
歐米の道路と我が國の道路　牧博士
陸上交通と道路　中川理事
閉會の辭　木村富山縣土木課長

聽衆五百名記念撮影をなし午後五時より富山ホテルに官民合同歡迎會、來會者百餘名頗る盛會裡に散會、それより高岡市に向ひ雨の街を驅つて高岡ホテルに入る、夜八時半より市の歡迎會あり盛んに歡待されて十一時頃就寢した。

十一月三日

午前十一時自動車で一行は伏木港を視察した、伏木町長矢鄕清太郎氏の案内で一行公會堂に少憩晝食を濟せ、更に自動車で沖事務所長の案内で港に至る、伏木港は小矢部川の河口に在り明治二十年十一月特別輸出港となり、同三十二年八月開港場となつた、近年巨額の國費を投じて改築しつゝあつて港内廣濶大船巨船の淀泊に便で日本海沿岸有數の良港である、尙同港有志等は株式會社を組織して五萬坪の埋立工事



伏木海岸

を行ひつゝあつて同港の發展を圖ることに努めつゝあると聞く、自動車で伏木、高岡間の道路を視察しつゝ高岡市に戻り午後三時より平米町小學校に於て講演。

開會の辭　早苗高岡市助役

道路改良と產業の開發　都筑幹事

道路の保安　佐藤技師

我が國の道路は何故發達せざりしか　牧　博士

交通上より見たる道路　中川理事

閉會の辭　木村富山縣土木課長

聽衆五百名最後の講演を終つて徒步にて高岡市內の道路を視察する、市は三百年來商工業を以て發展し來り將來も亦專ら主力を實業の伸張に注ぎそして市力の充實に努めつゝありと、高等商業を始め工藝、商業、商工實修の諸學校もあり以て如何に本市が實業都市としての使命を有するかを知るべく、銅鐵器は日本有數の產地として其名高し。旅宿に歸り歸京の準備に急がし。午後六時より縣と市側との合同晩餐會あり、九時和氣靄々裡に散會、直ちに木村土木課長始め多數の方々の見送りを受け高岡驛を離れ一行元氣に歸京の途に就く、車中ぐつたり疲れたま夢ゝの世界を辿る。

十一月四日

夢の間に午前九時五十五分上野驛着歸京した。

十月二十四日出發以來十二日間、講演十ケ所各地での有益な講演は聽衆に少からぬ感動を與へ道路を改良することが將來其の土地の文化產業開發上、唯一の捷路であることの自覺を喚起し得たものと思ふ。

終りに今回の講演旅行に方り各地での御叮重なる歡迎或は旅行や視察等に便宜をお與へ下つた御好意に對し深甚なる敬意と御禮を申上げて筆を擱く。』